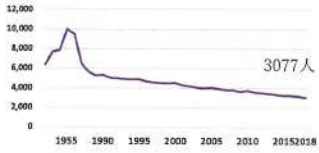
天塩町×筑波大学連携プロジェクト2019

北海道天塩町
2019.8
都市計測実験室

高大・中大連携プロジェクト

●天塩町と筑波大学都市計測実験室

天塩町は北海道道北地域に位置し，天塩川をはじめ広大な自然に囲まれた人口3,000人規模の町である．
都市計測実験室は4度目の訪問を行い，ワークショップや町内の交通調査を行った．



天塩の良さ動画でPRする
2018.02

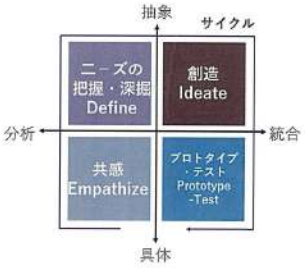
ワカモノ目線とジモト目線からまちつくり
2018.08

天塩の町づくりプランをPepperを使って提案する
2019.02

デザイン思考で新しいサービスを考えよう
2019.08

●活動の流れ

どんなプランや工夫があったら町が活性化するのか？少数の班になりワークショップを行う．各班でそのプランの主人公(ターゲット)を設定し，ニーズを深掘りし，それを満たすようなまちづくりプランの作成を行なった．
作ったプランはTAや町議会議員などからフィードバックをもらい，何度も練りなおしを行なった．

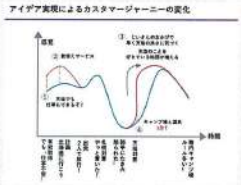


2019年8月24日
@てしお温泉　夕映え

北海道新聞 8.26/8.31

●高大連携の成果

高校生４班　夕映を活かした町の活性化



北海道天塩高校９名
北海道遠別農業高校10名
北海道豊富高校３名
景観に着目した出入り口の工夫など細かなプランから，高齢者ボランティアの創出など幅広くアイディアが出た．

●中大連携の成果

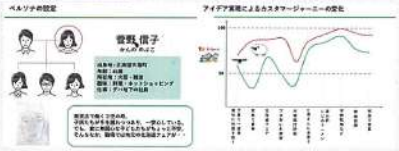
中学生1班　「夕映」の活性化

「合格」「不合格」という率直な指標で温泉施設夕映えを評価した．そのうえで，高齢者をはじめ家族ぐるみで来られるの地域コミュニティの場となるようなプランを作成した．

中学生２班　「道の駅」の活性化

北海道天塩宇野牧場×タピオカ「天ピオカ」を提案．
その販売場所として道の駅を選び，道の駅改造計画まで作成し，現実味があるプランとなった．

地域協力隊



北海道 道北地域の地域おこし協力隊16名とワークショップを行なった．道北がかかえる課題をよく知る協力隊の提案は，酪農場や漁業現場の声を大切にしたものが多くあがった．

天塩町役場　職員

天塩町役場職員４名と日本工営株式会社１名，TA大学院生がチームとなり，産官学の3つの視点が入ったプランを作成した．役場庁舎を含む大型施設など斬新なアイディアが生まれた．

町内調査

●調査内容と結果

時間	対象	
8月24日	住民，お店にヒアリング	町民
8月25日	夕映支配人と意見交換 夕映のデータ分析	地元企業
8月26日	訪問客調査 交通量調査	そともの
8月27日	道の駅にヒアリング 近隣自治体調査	そともの
8月28日	宇野牧場と意見交換 近隣自治体調査	地元企業
8月29日	天塩町議員横山さんにヒアリング	行政

天塩町内の通過交通・住民の日常移動に着目し，てしお温泉　夕映えを拠点としたMaaSを提案した．
その際，各関係者へヒアリング調査を行い，実態に沿った内容となった．調査のなかで，道の駅と夕映で利用者の属性に違いがあることや，天塩を通過してしまうトリップが多いことがわかった．

交通量調査

(8月26日12～13時　16～17時)

訪問量調査

(8月26日12～13時　16～17時)

●問題発見

Motteco

現状　稼働率が低い

- 原因①:トリップの登録が煩わしい
- 原因②:ドライバーのメリットが弱い

天塩町議員やライドシェアドライバーから利用実態と課題を伺い，現状把握を行なった．

●提案　――通過交通を活かしたライドシェアと地域通貨"てしお金"の導入

ドローンによる空撮や町内交通の実態を踏まえ提案した．
ライドシェアと地域通貨を組み合わせたプランを，
町外の人・天塩町・町民の3者の利害関係から考察した．

●効果と展望

事業拡大による広域連携

交通とサービスをパッケージ化したプランとなった．
また，現在の実証実験地域を拡大することで，ライドシェアの効果が増大することを示した．